
先輩と後輩のとある会話

緋色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

先輩と後輩のとある会話

【Nコード】

N3633T

【作者名】

緋色

【あらすじ】

晴れた日の学校の屋上。

先輩と後輩のとある会話。

「ねえ、先輩」

「ん？ なんだい後輩」

「……人って死んだらどうなるんでしょう」——本文冒頭より。

「ねえ、先輩」

「ん？ なんだい後輩」

「……人って死んだらどうなるんでしょう」

「ふむ……。まあ、一般的には火葬だね。燃えて灰になってしまうだろう」

「……先輩、そうじゃなくて」

「おや？ もしかして火葬ではなくて、土葬の方が好みだったのかい。それは珍しい」

「……ふざけてます？」

「まあ、半分程ふざけてる」

「……」

「……」

「……」

「仕方ない。ふざけなしに答えようか」

「……」

「人が死んだ先にあるのは無さ。何にも無い」

「天国とか地獄とかは……」

「無いだろう。少なくとも私は信じていない。死んだ人が星になるなんて話もよくあるが、あれは親しい人を亡くした人が寂しさから生んだ話だ」「……現実的すぎませんか」

「そりゃ、死んだ先に夢見てどうするんだい」

「ごもつとも」

「だから私から見たら自殺者なんてただの馬鹿だね。自分から無に行ってどうすんだか」

「先輩らしい」

「それで？」

「はい？」

「君は生きたいのかい？ それとも死にたいのかい？」

「……………」

「さっきも言ったが自分で死ぬのはただの馬鹿だ」

「ええ」

「まあ、正直君の人生だからね。責任を負いたくはないから余計な事は言わないよ」

「……………そうですか」

「そうさ」

「……………僕はですね。いまいち生きている意味というか、理由が見つからないんです」

「理由かい？」

「なんで生きているんだろって感じなんです」

「ふむ」

「先輩は……………」

「なんだい？」

「どうして今を生きているんですか」

「これはまた唐突に哲学的な質問をするね」

「……………」

「そんなもん簡単さ」

「どうして？」

「死ぬ理由が無いからさ」

「……………は？」

「これはまた間抜けな声を」

「いや、だって」

「そんなもんだろ。人間いつか死ぬんだ。なら今急いで死ぬ必要無いだろ。だから生きる。生きるからには今を楽しむ。それが私だ」

「ああ、そっぴやそっぴやだね」

「君は今、生きたいか死にたいかは関係無く、死ぬ理由が、死ななきゃいけない理由があるのかい？」

「別にこれといって……………」

「なら生きればいい。生きていれば生きる理由も見つかるかもしれないさ」

「……先輩」

「どうした？」

「さっき責任負いたくないって言った人の言葉とは思えないです」

「うん、私もそう思う」

「……」

「何じつと見てるんだ？」

「生きることにします」

「死ぬ理由が無いから？」

「いいえ、生きる理由が見つかりました」

「ん？ なんだいそれは」

「……秘密にします。言ったら不味い気がしますんで」

「後輩のくせに生意気だな」

「今更ですね、葵先輩」

「……どうした、急に名前で呼ぶなんて、祐輔」

「気まぐれです。先輩こそ名前なんて珍しい」

「ただの気まぐれさ、後輩」

「そうですか」

「そうさ」

「……」

「……」

「先輩」

「なんだい、後輩」

「また、明日」

「……ああ、また明日」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3633t/>

先輩と後輩のとある会話

2011年10月7日01時21分発行